

2020年12月20日

奉仕セミナー開催にあたり

職業・社会・国際奉仕統括委員会

委員長 水野晋治

本日は年末の押し迫った大変お忙しい中、職業・社会・国際奉仕統括委員会主催の「奉仕セミナー」へ、国際ロータリー第 2790 地区漆原摂子ガバナー、梶原等ガバナーエレクトを始め、多数のガバナー補佐の皆様、ロータリー財団委員会から講師としてお越しいただいた、補助金プロジェクト小委員会浅野肇委員長、会場にお越しいただいたもしくは、Zoom にてご参加いただきましたクラブ会長を始めとした多くの皆様誠にありがとうございます。従来でしたらこの会場に 200 名近い方々にお集まりいただき、様々な情報を共有、交換し、各クラブの活動にお役立ていただくところですが、コロナ禍の中、開催をするか、中止をするか大変悩みました。

ただ、いつまでもロータリーの活動を止めている訳には行きません。

このような状況の中でも、世界中や日本国内にも支援を必要としている人たちはいます。

また、このような状況下だからこそ、適用力や多様性または、ロータリーの真価が問われているのではないのでしょうか？

ある会員が言いました。ロータリーは毎週集まってただご飯食べて…このような時期夜間例会もできず何も意味がない…。ある会員はコロナ禍で子供食堂の運営が大変なことになっているらしい、このような時こそ何かしたいと奮闘していました。

我々ロータリアンはその立場や、ロータリーとの関り方によって奉仕への考え方には大きく違いがあるかと思えます。また、クラブによっても様々かと思えます。

あるクラブは格式や伝統を大切に、職業奉仕を中心としているクラブもあるかと思えます。基本的に奉仕活動は個人で行うものだという考え方もあります。

また、例えば、現在コロナ禍で国際奉仕を行えない代わりに、地元で、先ほど触れました子供食堂が増えてきています。今都市部では貧困問題も社会問題の一つとなっています。その子供食堂を支援したり、例えば、コロナ禍で逼迫する医療従事者を支援するクラブもあるかと思えます。

どれが正解というものはないとは思いますが、社会情勢が不安定な今、ロータリーとしてどうあるべきか、そのような事を本日のセミナーを通じて皆様と一緒に考えていければと思います。

さて、皆様のクラブの運営も同じだと思いますが、我々の委員会も今年度は大きく活動が制約されました。通常ですと、1 月頃より次年度の準備が始まり、4 月中旬ごろまでに年度の活動を決めていくのですが、4 月に緊急事態宣言発令に伴い、すべての活動が一時止まり、そのまま年度のスタートを迎えることとなりました。当初予定していた 8 月のセミナーは延期し、考えていた活動も取捨選択を迫られました。

特に我々の委員会ですと、国際奉仕については、海外に行く事すらまだ見通しが立たず、クラブの国際奉仕活動も停滞していることと思えます。当然、海外からのマッチングの話も来なくなりました。

特に今年度は実践する職業奉仕として職業奉仕委員会と国際奉仕委員会の共同による、財団の補助金を使った**職業研修チーム**(VTT)なども研究、挑戦をしたいと考えておりましたが、これは早々に諦めました。

(VTT とは:海外で専門職業に従事する人たちに研修を提供したり、研修を受けるためにチームが海外に赴いたりできるのが職業研修チーム (VTT) である。

職業研修チームは、地区補助金とグローバル補助金の補助金で実施できる。グローバル補助金での職業研修チームの場合、研修内容がロータリーの重点分野に関連していることが条件となる。

さらに、チーム構成は、3つの利用する補助金により異なり、グローバル補助金の場合では該当する重点分野において最低2年の職歴を有する少なくとも2名のメンバー（ロータリアンであるなしを問わない）と、重点分野に関する専門知識、国際経験、一般的なロータリーの知識を有するロータリアンのチームリーダー1名で構成。ただし、事情によっては、ロータリアンではない人がチームリーダーとなることを財団が許可する場合もある。参加者の年齢制限なし）

社会奉仕については、昨年千葉県房総地域を襲った台風15号、19号の時に、同じ県内なのに、支援するにも情報が無かったり、方法もありませんでした。

私が所属するクラブでも同じ千葉県の中で何か少しでも支援ができないかという議論がありました。しかし、実際に被災したクラブの方々のご自身の事で精いっぱい、他のクラブからの支援の窓口になどなれる訳もございません。また、実際に被災すると情報が圧倒的に少なくなり、周りの状況把握が非常に困難になる事が知られています。

今年熊本を襲った洪水被害を覚えていますでしょうか？

2720地区の人吉市を流れる球磨川が氾濫しました。水害が発生した二日後には2720地区の支援トラックが支援物資を満載にし、熊本市を出発しました。

熊本地震をきっかけに支援の体制が多少あったようです。

またまた、メンバーの関係するビルに空き店舗があり、そこが即席の支援拠点となりました。

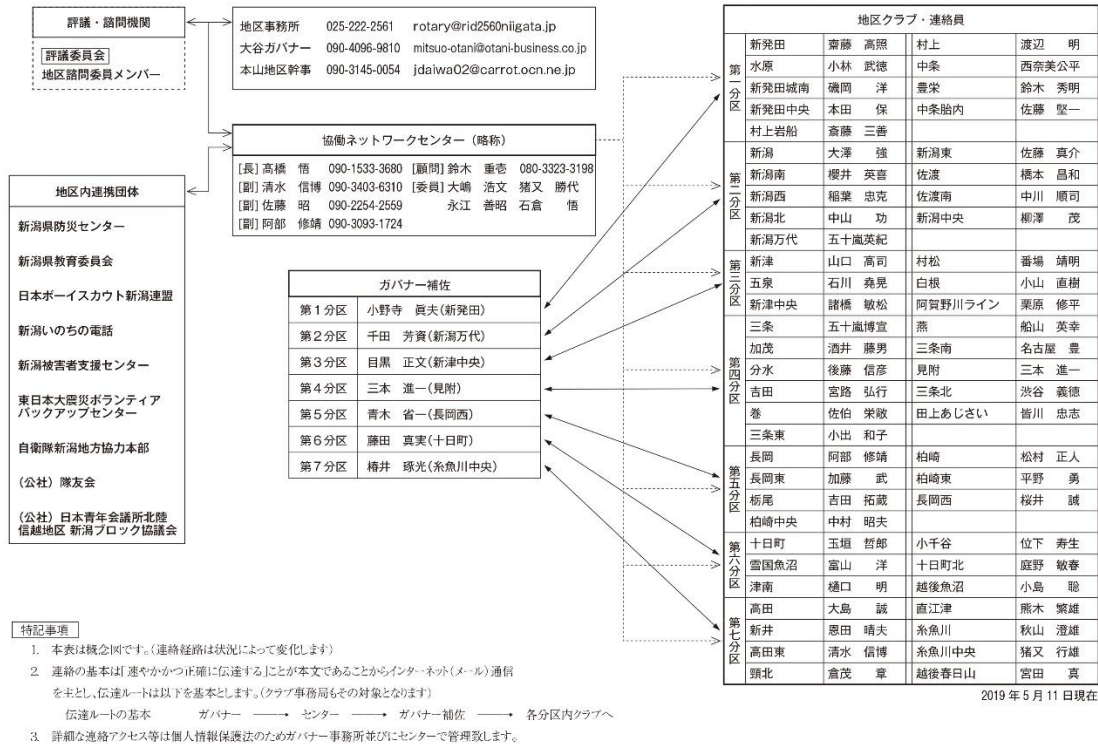
クラブのメンバーが元々観光ホテルを経営しており、観光情報を発信するために積極的にSNSを活用していました。その方が、SNSで情報を発信すると、全国のクラブから様々な支援物資が届きました。



(2720地区人吉RCパスト会長個人Facebookより転載)

また、2560 地区新潟では中越沖地震をきっかけに共済システムが確立されています。
 毎年地区の関係者やクラブの担当者の連絡網を更新し、セミナーを開催し、いざという時に備えています。

2019-20 ローターリー地域協働ネットワーク緊急連絡網



(2560 地区ホームページより転載)

残念ながら気候変動の影響もあり、何十年に一度と言われるような台風や豪雨被害がこれからも発生する可能性があります。そのような事は無いに越したことはありませんが、万が一被災した時、近隣のグループやクラブが中心となり、支援体制を作れるような仕組みができないかと現在も検討、研究をしております。

ただ、残念なことに、行政機関がコロナ禍により打ち合わせができず、中途半端な調査となっております。これについては、今年度中に何か形ができるところまでは行きません。

ぜひ来年度、それ以降も地区として取り組んでいただければと思います。

支援の枠組みは単にロータリーだけではなく、他の団体と協力する事も必要かと思ひます。

例えば先ほどの新潟では、県の防災センターやボーイスカウト、自衛隊の関連団体、青年会議所などとも連携しております。

もしもの時にすぐに動ける仕組みができています。

これについては地区頼みだけではなく、グループ内でそういった協力の仕組みを作るのも一つかと思ひます。まずは緊急の連絡網などを作り毎年更新していく事も一つかと思ひます。

この件については、後程社会奉仕委員長からも話が出ると思ひますが、この災害ネットワークについては、もう少し研究を重ねていきたいと思ひます。

当委員会の残されたミッションの一つとしてロータリー財団の「地区補助金」の申請に対する選考に参加する事があります。

すでにご活用いただいているクラブも多いかと思いますが、クラブが実施する社会奉仕や国際奉仕プロジェクトには一定のルールを押さえれば地区補助金が活用できます。

この地区補助金についてクラブや地区から上がってきた申請に対し、奉仕プロジェクトの必要性といった観点から選考に参加していく事を考えております。

R 財団は TRF の指針やルールに沿った評価を行い、奉仕プロジェクトの中身については奉仕系の委員会が評価をするという流れは数年前より出来上がってきました。

今年度は3年目です。今後も継続されていけるようなシステム作りをしていきたいと思っております。

例えば、そのプロジェクトが地域社会に与える影響やインパクトの大きさ、恩恵を受ける人の社会的な立場や、広がりなどといった視点をより重点的に見て行きたいと考えております。

また、クラブの地区補助金申請のサポートなども行っていきたいと考えております。

最後に

Enter to learn, Go forth to serve

「入りて学び、出でて奉仕せよ」

少し前までよく使われていたスローガンです。

数年前から国際協議会などでも、以下のスローガンが使われています。

JOIN LEADERS. EXCHANGE IDEAS. TAKE ACTION.

正に本日のセミナーがそうです。各地のリーダーに集まっていただき、アイデアを交換し、行動を！

それでは本日は長時間になりますが、一日よろしくお願い致します。